

# 『東北の百合若伝説』覚書

矢代和夫

新潟県北蒲原郡聖籠町諏訪山に真言宗智山派の聖籠山宝積院観音寺という寺院がある。

この町の伝説に詳しい方の案内で、寺の近くの古老大倉さんの家を訪ねる。今日二十日は寺の十一面観音の祭日の日という。大倉さんはわれわれの知りたい、この地方の百合若伝説について知っていた。それは子供のとときに寺の先代の任職から聞いたそうだ。それによると、百合若は蝦夷との合戦のため二度やって来た。百合若の鷹はこの近くの山で捕らえたものであり、観音寺の境内に供養塔があるなどと教えて貰った。また、『越後廿九番蒲原廿七番 聖籠山観世音略縁起』を頂戴した。要点を紹介してみると、それは「抑々当山に安置し奉る十一面観世音菩薩併に二王尊は泰澄大徳の御作にして靈験新たの三尊な

り」に始まり、聖武天皇の天平九年、泰澄大徳が、百合若を思い鷹の緑丸の後生を弔うために、この三尊を作ったとしている点に注意を引く。この略縁起の百合若関係を整理すると、

①「天智皇帝の二年蛮国より百済国（ひやくさいこく）に敵するに仍つて百済より本朝へ救を乞しかば皇帝筑紫の木の丸殿へ御幸あり」

②ア「豊後の国の太宰の和田丸とて武勇比い無き壯士あり」

イ「百済を救ふに百合余の戦に理を失ふ事なし異国人百合弱（べかじゃく）と云ひしを自然と百合若大臣と称ふるとかや」

ウ「其の後嶋々の夷を平ぐべしと勅命を蒙りり蝦夷松前より当国へ渡り此の山の洞より

名鷹を得られたり緑丸と名付けて深く愛せり」

③「鷹も忠を盡すこと限りなし」

④（泰澄大徳が天平九年三尊を作った話が繰り返された後）「人王五十一代平城天皇の大同年何処国ともなく異人来りて堂舎を建て此の聖者を籠め奉るが故に聖籠山と名付けたり」

⑤「慶長十三年太守秀勝公進行有りて本堂併に二王門を建て永く国家鎮護の道場となりて一度結縁の輩は二世の求願むなしからざらん」云々。

以上、五点の内、特に②ア、イ、ウは、太宰の和田丸が、百済救援に活躍し、〈百合弱〉と呼ばれるようになり、それを自然に〈百合若大臣〉と呼ぶようになったのではという点、

また、勅命により蝦夷との合戦を経て、此の国へやって来たという点、その時、山の洞で鷹を得て〈緑丸〉と名付けたという点が注目される。百合若は伝統的な「鬼退治」にも行かず、百済救援と蝦夷との合戦の軍事統率者として考えられている。宝積院観音寺の縁起類については、板垣俊一氏の「北越の百合若伝説―地方における伝説の生成と変容―」（上・下）に詳しい検討があるのでいまはそれに譲っておく。さて、『日本伝説体系』所収の略縁起「聖籠山観世音略縁起」（以下、体系本）の翻刻がある（資料提供本多典子

氏）。しかし、本文その他の資料にも異同が大きく、むしろ混乱を深める段階だが、百合若の命名については、体系本も、連戦連勝の和田麿を対戦相手も畏服して「百合若大臣」と称した旨記して共通するが、本文に「邦人諱弱易以若字」と解説するから「百合弱」≡「べかじやく」が前提にあるのかも知れない。略縁起には、新潟県岩船郡朝日村の阿部操の昔話（「越後の民話」一九五七刊）のように「観音の秘花≡百合の花」に因む命名譚はな

に「鳩」としてているのが気になるが、対馬と新潟朝日村と関連があるのか、偶然に依るのか、謎はとけない。紙幅の関係もあるので百合若伝説の表を別

〈表〉

要 点	沓岐イナジヨ（昭9）	新潟阿部操（昭32）	対馬小宮レン・松島
①宝鏡い	○朝日と万の長者	○万と朝日の長者	
②万長者の申子祈請	○清水観音	○村の氏神	
③百合若誕生	○決死の祈願	○百合の花・祈願	
④求婚	○六条内裏・輝日	↓夢告≡百合若名	
・	↓天狗の秘法	×	

一九九一、四、一

と新潟の阿部操の二例だけが「鷹」の代わりは、前田淑「日本各地の百合若伝説」（上）の水沢謙一の阿部操から聞いた話に依る。操の記憶する話は沓岐島の伝説と類似すると前田氏は評している。阿部操の話を前田氏が民話として扱うように、盲僧や巫女の語り話として残ったのか、或いは、別に文字化されたルートに依るのか、現場の事情は様々である。次に「松島」の欄は、対馬の緒方の松島源助の伝えたもの（『日本昔話通観』）による。

⑤百合若懲罰	○鬼退治(イマンゴ)	×			
⑥殿の命令	↓成功↓内裏授与				○鬼退治
・		↓縁起 蝦夷			↓天子の命
⑦鬼退治	→	→	○		↓玄界島
⑧征伐の様子	○詳しい	○詳しい(異文)	×		○簡略
⑨取残された百合若	○神の怒り ↓不遜の歌	○疲労・眠り	○飲酒眠り		○鬼探索中
・					
・	↓睡眠中家来船出	↓しきみ・わきみ 船出	↓家来船出		↓家来船出
⑩百合若在島生活	○小鬼と共同生活	○茨木童子の助け	○刀で貝取り		○同3年
⑪鷹の往来	○	●鳩↓女より若へ ↓若↓健在の返事 女↓若(硯筆) 鳩失神若介抱	●鳩↓家↓若		○鷹↓島
・			↓「上」に ほぼ同じ		↓硯筆 鷹死す
⑫離島の機会	○日本の漁船来島	○3年後漁夫夢を 見て↓きんまんこくに 漁↓若救出	○何人も来島 ↓若↓髭異形 ↓若救出		○小船来島 若異形人か 鬼か↓救出
⑬帰国・本人の正体	○奥歯の特徴(キバ)	○帰国・殿に報告	○強い己		○強い弓
⑭結び	○目出度内裏の主	○しきみ・退治・結婚	○家来降参		家来射殺

〔注〕縁起類との比較↓直接の関係が見出し難い

9・12	前期定期試験成績発表表(一年)	4・7	二年オリエンテーション	文芸科カランドリエ①(1992年度)
9・1	3 二年実川ゼミ研修旅行 盛岡・遠野・花巻	4・10	入学式	
7・28	9・11 夏期休暇	4・15	前期授業開始	
7・14	前期授業終了	4・28	一年、神奈川県立近代文学館・大佛次郎記念館見学、二年、朝日新聞東京本社見学	
7・17	27 前期定期試験	5・13	一・二年、文楽鑑賞「南都二月堂良弁杉由来」新版歌祭文」於国立劇場	
7・13	二年古山ゼミ 集英社見学	5・21	23 一年文芸研修旅行(二泊三日) 軽井沢・追分散策・湯田中温泉泊・黒姫童話館(館長講演)・一茶記念館・北斎館・善光寺・懐古園などを見学	